

評価シート集計表

項目		
生ごみ (3,000トン)		
委員	評価	評価理由
委員1	C	目標としている「生ごみ3000トン減量」に対する進捗率は、61.7%で目標未達成。家庭用生ごみ処理機および段ボールコンポストの普及は目標を大きく下回っている。
委員2	D	組成調査から推定した生ごみ量は前年度比でほぼ横ばいとなっている。昨年度の評価の際にも、現状の施策では目標達成は困難で、新たな取り組みが必要と指摘したが、対応されていない。
委員3	C	目標値に達していない
委員4	C	生ごみのキャンペーンなどで、目標を達成している項目もあるが、生ごみ処理機の普及や大型ごみ処理機の普及などはなかなか進んでおらず、さらなる実行の推進が必要である。
委員5	B	生ごみの資源化の進捗状況は、市民の理解と協力が職員の皆さんの努力の割には得られていない。
委員6	C	減量目標に対する達成率が61.7%であり、前年実績（63.5%）を下回っているため。
委員7	C	目標数値に対する実績の乖離が甚大であり続けている実態に対し明確な対策を打ち出せていない。
委員8	C	スーパー等でのキャンペーンはいいと思いますが回数が少ない。
委員9	C	目標年に対する進捗率が62%で最終年度まで未達の可能性が大である。
委員10	B	生ごみ処理機の普及が、不十分と思った。
委員11	B	生ごみの削減は生ごみ1を中心に考えるべきであり、2019年度実績値が目標値を上回っている点は評価できる。
委員12	C	市内発生可燃ゴミ中”10%が草類”であるとの結果である。草類は、コンポスト化が十分できるはずのものに、全く目を向けていないし、審議会出席の市職員からは、否定的意見であると感じた。本来ならD評価が望ましいが、収集方法を変えればよいので、C評価とする。因みに、当町会の生ごみ削減率は、処理機やコンポストの使用なしに前年比、約10～13%（推定）であった。

<評価基準>

- 【A】 ⇒ 大幅に取り組みが進んでいる（引き続き取り組む）
- 【B】 ⇒ 取り組みは進んでいる（もう少し取り組みを強化し進める）
- 【C】 ⇒ 改善（取り組み内容を検証し、効果的に進めるために、施策内容実施回数、施策のスケジュール等の修正が必要）
- 【D】 ⇒ 新たな取り組みを検討し進めていく

評価シート集計表

項目		
紙類 (2,500トン)		
委員	評価	評価理由
委員1	B	燃やせるごみに含まれる「資源化できる紙類」は減少し、基準年に比較して、3343トンの減少となっており、目標とする「紙類2500トン減量」を上回っている。
委員2	B	項番4は目標を達成できなかったが、前年度よりは改善された。紙類の消費量自体が減っているのかも知れないが、紙類の資源化量は増加した一方、組成調査から推定した資源化できる紙類の燃えるごみへの混入量も前年度よりさらに減少しているため、分別回収がある程度進んだと評価してよいのではないかと。
委員3	B	燃やせるごみへの混入率は減少しているが、雑がみ回収としての目標には達していない
委員4	B	昨年度と比較すると紙類の資源化量は増加している。ただ、目標値を達成していないので、さらなる取り組みが必要である。
委員5	B	市民の分別も良くなっていると思います。協力と理解がまだ得られていない。
委員6	A	目標を達成しているため。
委員7	D	紙の資源化そのものの循環性、事業性の組成が変化していることの示唆を繰り返し受けているにも関わらず、大幅な目標値の引き上げや新しい施策の無い取り組みは成果の見込みを見出せない、方針から見直すのが望ましいのでは。
委員8	C	古紙業界では古紙が余っている状態である。分別して古紙の量を増やすのではなく、古紙自体が出ない仕組みを考えていただきたい。
委員9	A	全体としては目標が達成できているが、回収はやや未達。
委員10	A	市民の分別も良くなっていると思う。
委員11	C	古紙相場が値崩れする中で市の回収コストは無駄な税金支出ではないか。紙類の分別の徹底が進んでいない。
委員12	B	行政回収、地域資源回収が有効に機能している。当町会の資源量削減率は前年比、12.5%の削減であった。これらを再生利用等が100%近くなされているのを信じたい。

<評価基準>

- 【A】 ⇒ 大幅に取り組みが進んでいる（引き続き取り組む）
- 【B】 ⇒ 取り組みは進んでいる（もう少し取り組みを強化し進める）
- 【C】 ⇒ 改善（取り組み内容を検証し、効果的に進めるために、施策内容、実施回数、施策のスケジュール等の修正が必要）
- 【D】 ⇒ 新たな取り組みを検討し進めていく

評価シート集計表

項目		
事業系ごみ (5,000トン)		
委員	評価	評価理由
委員1	B	・中小事業者を対象とする訪問指導の件数を増やし、不適物の搬入を改善した。 ・「まちだ☆おいしい食べきり協力店」を増やし、事業系の生ごみの減量を行った。
委員2	C	残念ながら、事業系ごみの排出量が増加に転じてしまった。
委員3	B	前年度より増加しているが、基準年との比較では減少している、しかし、紙類の回収拠点設置のメドが立たない状況が続いている。
委員4	B	事業者へのきめ細かな情報提供と発信に関しては目標値を達成できていないものの、改善の様子がかがえる。そのほかの項目については目標値を達成しており、ある程度の成果が見える。ただ、事業系紙類の排出拠点は0のままなので、この点をどうするか検討が必要である。
委員5	B	新型コロナウイルスで外出自粛の影響で主に食品の小分けパックが多くなり、ごみ量が増えていると思う。レジ袋有料をスーパー・コンビニ等と協力してアピール 搬入物の検査は有効。
委員6	C	減量目標に対する達成率が74.1%であり、前年実績(83.8%)を下回っているため。
委員7	C	情報発信、啓蒙に終始し、考課測定し得ない内容。
委員8	B	市のルールブック、分別のチラシ等排出事業者が分別を意識しやすくなっている。
委員9	B	目標に対する達成率が74%である。
委員10	B	ごみ処理量が多い項目なので、ここを頑張りたい。
委員11	C	項番5 2019年度の目標値と実績値の乖離が大きすぎる。
委員12	C	住宅・共同住宅の排出量は、全ゴミ量の概ね50%程度と読み、ゴミの内容物詳細も、よく分析されている反面、残50%の事業系ゴミは、ヒトククリにされており、事業所別(少なくとも、オフィス、病院・診療所・福祉施設、集会施設、学校、作業所・・・等)の排出量が全く不明であり、コメントが困難である。

<評価基準>

- 【A】 ⇒ 大幅に取り組みが進んでいる(引き続き取り組む)
- 【B】 ⇒ 取り組みは進んでいる(もう少し取り組みを強化し進める)
- 【C】 ⇒ 改善(取り組み内容を検証し、効果的に進めるために、施策内容、実施回数、施策のスケジュール等の修正が必要)
- 【D】 ⇒ 新たな取り組みを検討し進めていく

評価シート集計表

項目		
協働パートナーシップ		
委員	評価	評価理由
委員1	B	リサイクル広場の空白地域での開催など、開催場所を増やすことができた。スポーツチームとの協同で、マイボトルキャンペーンを行った。子供向けの出前講座を通じて、保護者にも講座内容を伝えることができた。
委員2	B	概ね目標を達成している。
委員3	B	不動産会社との連携はできなかったが、大学や駅でのキャンペーン実施やマンション管理組合との連携などは評価できる。
委員4	A	いくつか目標値を達成できなかった項目もあるが、おおむね目標値は達成されており、また、地域住民との連携などうまくすすんでいる項目もある。
委員5	A	リサイクル広場、イベントでの広報等の拡充が環境に対する関心を多くの人に知る機会となっている。
委員6	B	ほぼ目標を達成できているため。
委員7	D	集会、イベント開催が柱となると現社会状況へ対応できない。
委員8	B	減量計画書の届出様式の見直しを行っていただきたい。排出事業者が見ても分からない事が多いため。
委員9	A	各項目でバラつきがあるものの全体的には目標をクリアしているといえる。
委員10	A	活発に活動していると思う。
委員11	C	イベント等でPRは地味ではあるが一定の効果はあり、実績値も目標値に近いものになっている。
委員12	A	排出ゴミの「受け皿」すらままならないなか、よく稼働している。

<評価基準>

- 【A】 ⇒ 大幅に取り組みが進んでいる（引き続き取り組む）
- 【B】 ⇒ 取り組みは進んでいる（もう少し取り組みを強化し進める）
- 【C】 ⇒ 改善（取り組み内容を検証し、効果的に進めるために、施策内容実施回数、施策のスケジュール等の修正が必要）
- 【D】 ⇒ 新たな取り組みを検討し進めていく